

講義科目名称：基礎看護技術演習Ⅲ

英文科目名称：Practice in Nursing Skill Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
◎岡村典子、川島良子、谷内田潤子、山岸美奈子、池田よし江、金井系未			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 前期	【授業時間】 30時間		
	【担当教員】			
	【氏名】	【所属】	【研究室】	【メールアドレス】
	◎岡村 典子 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	216	norio@niigata-
	川島 良子 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	206	kawasima@niigata-
	谷内田 潤子 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	共同研究室 1	yachidaj@niigata-
	山岸 美奈子 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	共同研究室 5	yamagisi@niigata-
	池田 よし江 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	共同研究室 1	yoshiike@niigata-
	金井 系未 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	共同研究室 5	tkanai@niigata-
	実務経験のある教員が担当します。			
	【本学の科目区分】 専門科目			
	【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程			
	【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】 【DP6】 【DP7】 ○ ◎			

到達目標	1. 看護技術の科学的根拠を理解し、対象者の安全・安楽を踏まえた診療に伴う援助技術が実施できる 2. 対象者の状況に合わせた診療に伴う援助技術を考えることができる 3. 基礎看護学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの学修を踏まえ、事例に対応した援助が実施できる
授業概要	学修する各看護技術の目的と意義、そして実施するための知識・技術を習得する。この科目では、食事・排泄を整える援助、呼吸・循環・体温を整える援助、検査時の援助、与薬時の援助に関する技術について、必要な知識を学ぶとともに演習を通して技術の習得を目指す。さらに、事例に対応した援助を展開することにより、基礎看護技術演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの学修を統合する。 ※A・Bグループに分かれて少人数で演習を行う。詳細のスケジュール（担当教員含む）は後日配布する。
授業計画	1 授業内容 授業形態：講義・演習 学修課題：無菌操作法 学修内容：無菌操作法、滅菌と消毒法 事前学修：基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱの必携図書（系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 第2章p64～p88）を通読する。 事後学修：演習を振り返り、手順書（無菌操作）を通読する。 演習時に用いた滅菌手袋を持ち帰り、滅菌手袋の装着及び無菌操作について自己練習する。 次回の「排泄（導尿）」の演習で滅菌手袋の装着が正しく確実に行えるよう準備する。 備考：池田 2 授業内容 授業形態：講義・演習 学修課題：食事、排泄① 学修内容：導尿、留置カテーテルの管理 事前学修：前回「無菌操作」の演習で行った滅菌手袋の装着が正しくできるよう練習・習得する。 必携図書（系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ p71～p809）、手順書（導尿：一時的導尿）を通読する。 事後学修：モデルに対して一時的導尿を実施し、演習後課題用紙を記載して、期日までに提出する。 知識が不明確な部分は、教科書、手順書、演習資料、参考書等を再確認する。 練習を行い、根拠に基づいた技術の習得を目指す。

3	備考：池田 授業内容 授業形態：講義・演習 学修課題：食事・排泄② 学修内容：経管栄養法の方法と管理 グリセリン浣腸の方法 事前学修：① 経管栄養 必携図書(系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第2章C)、② グリセリン浣腸 必携図書 (系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第3章C)、手順書(グリセリン浣腸)を通読する。 事後学修：モデルに対してグリセリン浣腸を実施し、演習振り返り兼課題用紙に記載し期日までに提出する。(経管栄養と共通の用紙) 経管栄養については教科書、講義資料、参考書等を復習し、設問に取り組み期日までに提出する。 練習を行い、根拠に基づいた技術の習得を目指す。 知識が不明確な部分は、必携図書、手順書、演習資料、参考書等を再確認する。
4	備考：池田 授業内容 授業形態：講義 学修課題：呼吸・循環・体温を整える基礎知識 学修内容：呼吸・循環・体温に関する機能と症状 呼吸を楽にするための援助、循環の保持と促進の援助、体温維持の援助 事前学修：必携図書(系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第7章p236～p239, p261, p274～p275)を通読する。 事後学修：呼吸・循環・体温それぞれの機能と役割、および、援助の必要性について説明できる。また、それ その援助方法を説明できるよう復習する。
5	備考：山岸 授業内容 授業形態：演習 学修課題：呼吸・循環・体温を整える看護技術 学修内容：酸素吸入(02ボンベ)、ネブライザー 気管内・口腔内吸引法 温電法・冷電法 事前学修：気管内・口腔内吸引の手順書の目的および技術ポイントを読む。また、必携図書(系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 6吸引 p256, p258)の二次元コードから動画を視聴する。 事後学修：気管内・口腔内吸引の目的や技術ポイントを説明することができる。また、確実な清潔操作および 無菌操作を行い、安全な吸引手技を習得できるよう練習を行う。
6	備考：山岸 授業内容 授業形態：演習 学修課題：呼吸・循環・体温を整える看護技術 学修内容：酸素吸入(02ボンベ)、ネブライザー 気管内・口腔内吸引法 温電法・冷電法 事前学修：酸素ボンベの使用や酸素吸入・電法について必携図書(系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第7章 p156～p160, p261～p267, p274～p277)を通読する。 事後学修：酸素ボンベの安全な取り扱いや、酸素吸入・ネブライザーの目的および方法・手技、電法の目的と 方法について説明できるよう復習する。
7	備考：山岸 授業内容 授業形態：講義 学修課題：検査と看護の基礎知識 学修内容：臨床検査の目的、臨床検査の種類 検査における看護の役割 検査結果を看護に反映 事前学修：必携図書(基礎看護技術Ⅱ 第11章・第12章)を通読する。 事後学修：講義資料を復習する。
8	備考：川島 授業内容 授業形態：演習 学修課題：検査と看護① 一静脈血採血の技術一 学修内容：注射器・針の取り扱い 採血部位と方法、血液の処理の仕方 医療廃棄物の処理 (注射法については臨床との連携を図りながら学習する) 事前学修：事前学習は学習シートを事前に配布する。 事後学修：技術を習得するための練習を行う。
9	備考：ゲストスピーカー、川島 授業内容 授業形態：演習 学修課題：検査と看護② 一静脈血採血の技術一 学修内容：注射器・針の取り扱い 採血部位と方法、血液の処理の仕方 医療廃棄物の処理 (注射法については臨床との連携を図りながら学習する) 事前学修：事前学習は学習シートを事前に配布する。 事後学修：技術を習得するための練習を行う。 備考：ゲストスピーカー、川島

	10 授業形態：講義 学修課題：与薬と看護の基礎知識 学修内容：与薬の種類と特徴、薬害、薬品管理、各種与薬法の原則と留意事項 多職種との連携 与薬における看護の役割、与薬時のアセスメント 事前学修：必携図書（第9章 314～354ページ）を通読する。 事後学修：授業で学んだ6Rを確実に記憶し、手順書（与薬・経口与薬法、直腸内与薬法、筋肉内注射法）に照らして理解を深める。 備考：谷内田 11 授業内容 授業形態：演習 学修課題：与薬と看護—経口与薬、直腸与薬— 学修内容：経口与薬法、直腸与薬法 事前学修：与薬と看護；課題1に取り組む。課題の内容は、新レシカルボンR坐薬の「効能・効果」「用法・容量」「副作用」について、添付文書を参考に要点を整理する。 レシカルボン坐薬使用後の観察項目をまとめる。 課題1の用紙は演習終了時に提出する。 事後学修：手順書を参考に、経口与薬および直腸与薬の技術練習を行う。 備考：谷内田 12 授業形態：演習 学修課題：与薬と看護—筋肉内注射（三角筋）— 学修内容：上腕の三角筋への筋肉内注射法 （臨床との連携を図りながら学習する） 事前学修：与薬と看護；課題2に取り組む。課題の内容は、肩部筋層及び三角筋付近の動脈・静脈・神経の走行についてである。課題2の用紙は演習終了後に提出する。 事後学修：手順書及び「筋肉内注射」技術チェックリストを用いて三角筋への筋肉内注射法の技術練習を行う。練習が可能な日時は、演習要項を参照する。 備考：ゲストスピーカー、谷内田 13 授業形態：演習 学修課題：与薬と看護—筋肉内注射（中殿筋）— 学修内容：臀部の中殿筋への筋肉内注射法 臨床現場における与薬について （臨床との連携を図りながら学習する） 事前学修：与薬と看護；課題3に取り組む。課題の内容は、臀部の筋層及び動脈・神経の走行についてである。課題3の用紙は演習終了後に提出する。 事後学修：手順書及び「筋肉内注射」技術チェックリストを用いて中殿筋への筋肉内注射法の技術練習を行う。練習が可能な日時は、演習要項を参照する。 備考：ゲストスピーカー、谷内田 14 授業形態：演習 学修課題：事例に応じた看護の展開① 学修内容：事例に対応した援助について、看護過程の展開を通して考え実施する 事前学修：看護援助論Ⅱの内容を復習しておく。 事後学修：授業中に説明する。 備考：川島 15 授業形態：演習 学修課題：事例に応じた看護の展開② 学修内容：事例に対応した援助について、看護過程の展開を通して考え実施する 事前学修：看護援助論Ⅱの内容を復習しておく。 事後学修：授業中に説明する。 備考：川島
評価方法、評価基準	到達目標に対し、下記の3点にて評価する。 1. 期末試験70%：期末試験として、目標達成度を最終的に評価する。 2. 課題20%：課題内容は、学習の進行に応じて講義時に説明する。 3. 学習態度10%：演習、グループワークに主体的・能動的に取り組んでいるかについて評価する。
必携図書	自作テキスト：ファイルにて配布、ハンドアウト資料使用 有田清子他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。（前年度購入済み教科書）
参考図書・資料等	阿曾洋子他：基礎看護技術，医学書院
受講、課題、資料配布等のルール	・演習は時間の中で順序立てて進めていくため、20分を超える遅刻や途中退出は欠席とみなし、遅刻3回で1時限分の欠席とする。出席日数が規定に満たない学生は試験を受けることはできない。また、服装・髪型・爪などの身だしなみ、言葉遣いといった演習に取り組む姿勢にも留意すること。なお、学習課題の順番は変更する場合がある。 ・看護技術の習得を目指すため、課題へ意欲的に取り組むとともに、時間外の自己学習も必要となる。
教員からのメッセージ	看護援助は、対象の立場を考え、対象に合わせて方法を選択し、実践する力が必要となります。そのためには、看護技術に関する知識の定着とともに反復練習が欠かせません。自習時間を十分に活用した練習を期待しています。
オフィスアワー	時間があえばいつでも